

3 瀬戸内海の水運と工業の発展

○海を生かした瀬戸内工業地域

瀬戸内海沿岸：古くから製塩業や造船業、綿織物工業などが盛ん

→第二次世界大戦後、塩田跡地や海岸の埋め立てにより、()が形成

臨海部：海外から原油や鉄鉱石などを輸入、工業製品を国内外に輸送

→()や製鉄業、造船業、自動車工業などの重化学工業が発達

倉敷市(岡山県)や周南市(山口県)、新居浜市(愛媛県)：()の形成

福山市・呉市(広島県)：製鉄所がつくられる

倉敷市の水島地区：さまざまな分野の工場が集まり、鉄鋼や自動車、食品など生産

※()とは、石油や天然ガスを原料として、さまざまな化学製品を生産する工業のこと。

石油精製工場を中心に関連工業が集まり、()を形成している

○輸送機械工業の発展

広島市とその周辺：古くから工業が発達、高い技術を持つ人が多い

→自動車関連工場が集まる

下松市(山口県)：造船業が盛ん、造船工場の施設を利用した鉄道車両の工場がある

→完成した鉄道車両は、大型貨物船やトラックで各地に運ばれる

○新たな製品開発への取り組み

アジア各地で大規模な石油化学コンビナートの建設が進む

→日本企業が海外進出し、現地で原料を調達する動きが強まる

→日本国内で石油化学製品の需要が減少

瀬戸内工業地域：機能や性能が高い製品の開発を進めるメーカーが増加

宇部市(山口県)や新居浜市(愛媛県)：医薬品や医療器具の開発

松前町(愛媛県)：軽くて丈夫な炭素繊維の開発

竹原市(広島県)：電気自動車の蓄電池の開発